

3. 霊的・肉体的健康を守る

1. イエス・キリストが、その復活のあと、トマスに言われた。それは、かれが他の弟子たちと共にいた時のことであった。「あなたは私を見たから、あなたは信じたんだ。」(ヨハネ 20:29、英語・新米国標準訳)

「・・・イエスは、その十一人が食卓に着いているところに現われて、彼らの不信仰とかたくなな心をお責めになった。それは、彼らが、よみがえられたイエスを見た人たちの言うところを信じなかったからである。」(マルコ 16:14、新改訳)

2. 「復活後の私を」見ていない、しかしそれでも信じている人々は、祝福されています。」(Blessed are those who have not seen and yet have believed.) (29 節下句、英語・新欽定訳)

「祝福・幸い/happy」(マカリオス)が、分かりやすい多くの聖書で「幸い」と訳されていますが、より良い訳はやはり「祝福」です。；聖書の神からの・いのちの祝福は、人間の幸福の起源です。この・神からの幸福の素(もと、幸福となる原料)が、神の祝福です。いのちの祝福という、神の恵みの贈り物が、救いの信仰をもつ聖なる者のなかで、御霊によって活性化されるときに、「ああ、何という幸せ！」と心からの感謝の喜びが、信仰の泉から湧き上がります。；祝福と幸いについて、さきの(教師版 2. 選択の力)で、どうぞ確認してください。

3. そしてトマスは彼(復活後のイエス)に答えて、言った。「私の主また私の神！」(28 節、英語・新欽定訳)

ヨハネ 20:28 での、トマスの信仰告白は「イエスが、だれであるか」について劇的にはっきりと示しています。ヨハネによる福音書が、本質において、キリストについての教え(キリスト論：かれの位格と働き)

[Christ : His Person and Work] です。それは、私たち人間のために、キリストが、何をなさったか、を述べています。

4. 「しるしの本」と「栄光の本」の、二つが、ヨハネ書の全体です。(1--12 章と 13--20 章)

前半の「しるしの本」のなかで、ヨハネは注意深く、7つの「しるし」(奇跡)だけを選びました。マタイ・マルコ・ルカ書では、イエスのいやしの奇跡が、たとえば、奇跡(ドゥナミス)で語られます。；マルコ 6:2 力あるわざ(口語訳、新改訳)、奇跡(新共同訳)。マタ 13:54 奇跡(新共同訳)。ルカ 4:36 力(口語訳、新改訳、新共同訳)。

ところが、ヨハネ書では、全然この言葉(ドゥナミス)が出て来ません。その代わりに、しるし(セーメイオン)が出て来ます。「しるし」とは、ただ「力あるわざ」ではありません。それは、イエスに起こった救いの出来事：啓示とあがないです。

「これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。」

(20:31、新共同訳)

5. 「私の主また私の神！」：ヨハネは、主イエスが、いのち、光、恵み、真理、栄光と言います。(1:4, 4-5, 14) それから、神である、と言います。「いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。」(1:18)

「自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと言信するなら、あなたは救われる。」(ローマ 10:9、口語訳)

6. 主イエスの、十字架の死・復活・昇天という、ひとつづきの出来事が、栄光です。「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」(ヨハネ 12:24)

7. 神の国という、福音は、終末論的な祝福です。永遠のいのちは、神の国の・いのちです。「子供のようにならば、神の国を受け入れる人でなければ、決してそこ[神の国]に入ることはできない。」(マルコ 10:15) 「神の国はこのような者たちのものである。」「そして彼は子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。」

(10:14, 16)